

かねだ勝年 国政報告NEWS H25.3.20 現在

—TPP参加阻止に向けて必死の努力—

討議資料



3.8 参加反対で農水大臣へ副知事と陳情

3.12 TPP参加阻止緊急集会で反対表明

2.15 JA秋田県青年部協議会長から陳情を受ける

かねだ代議士は、**自民党外交・経済連携調査会副会長として、また、党TPP対策副委員長として**、これまでTPPを巡る議論において、**先の総選挙での公約を守るように積極的に行動して参りました。**

また、交渉参加反対集会や農林水産大臣や官邸への申入れなどはもちろん、地域社会に悪影響が出ないように訴え続けてきました。

しかし、3月15日(金)、安倍晋三総理からTPP交渉参加の表明がありました。憲法上、外交は政府が行うこととはいえ、これは非常に残念なことであります。しかし、その際に、かねだ代議士は度重なる党での議論の中で、

農業の重要5品目(米、麦、牛・豚肉、乳製品、甘味資源作物等)や国民皆保険制度等の聖域を守ること

を決議に入れることに全力を尽くしました。

今後も引き続き、地域社会に暮らす人々の生活が脅かされないことがないように、上記の2点を守るため、**懸命に努力していく覚悟です。**

かねだ代議士の主な発言から・・・

各新聞(2～3月日本農業・産経・毎日・秋田魁)に報道されたものより抜粋

- TPP反対をずっと訴えてきた。期待に応えられるよう頑張りたい。
- JAグループの皆さんと思いは同じだ。デメリットははっきりしている。国益が守れないなら交渉からの脱退を選択肢として考えるよう強く求める。
- デメリットは多く、農業や医療など、地域社会に与える影響は甚大。政府の情報不足、説明不足を党内議論で早期に解消する努力もしていきたい。
- 民主党がはじめた「TPP参加の政策」を受け継ぐ必要はない。
- 政府が決めれば党の議論はいらない、という議論は間違っている。
- 日米の共同声明は「全ては交渉の結果次第」と確認したに過ぎない。聖域が担保されたわけではない。国益の説明もない。国益を守れないような状況に陥ることがあれば、交渉からの脱退を選択肢として考えるべきだ。